

3日 水曜

列王Ⅱ

6:24 この後、アラムの王ベン・ハダドは全軍を召集し、サマリアに上って来て、これを包囲した。

6:25 サマリアには大飢饉が起こっていて、また彼らが包囲していたので、ろばの頭一つが銀八十シェケルで売られ、鳩の糞一カブの四分の一が銀五シェケルで売られるようになった。

6:26 イスラエルの王が城壁の上を通りかかると、一人の女が彼に叫んだ。「わが主、王よ。お救いください。」

6:27 王は言った。「【主】があなたを救わないのなら、どのようにして、私があなたを救うことができるだろうか。打ち場の物をもってか。それとも、踏み場の物をもってか。」

6:28 それから王は彼女に尋ねた。「いったい、どうしたというのか。」彼女は答えた。「この女が私に『あなたの子どもをよこしなさい。私たちは今日、それを食べて、明日は私の子どもを食べましょう』と言ったのです。」

6:29 それで私たちは、私の子どもを煮て食べました。その翌日、私は彼女に『さあ、あなたの子どもをよこしなさい。私たちはそれを食べましょう』と言ったのですが、彼女は自分の子どもを隠してしまったのです。」

6:30 王はこの女の言うことを聞くと、自分の衣を引き裂いた。彼は城壁の上を通っていたので、民が見ると、なんと、王は衣の下に粗布を着ていた。

6:31 彼は言った。「今日、シャファテの子エリシャの首が彼の上についていれば、神がこの私を幾重にも罰せられますように。」

6:32 エリシャは自分の家に座っていて、長老



たちも彼と一緒に座っていた。王は一人の者を自分のもとから遣わした。しかし、その使者がエリシャのところに着く前に、エリシャは長老たちに言った。「あの人殺しが、私の首をはねに人を遣わしたのを知っていますか。気をつけなさい。使者が来たら戸を閉め、戸を押しても入れないようにしなさい。そのうしろに、彼の主君の足音がするではありませんか。」

6:33 彼がまだ彼らと話しているうちに、使者が彼のところに下って来て言った。「見よ、これは【主】からのわざわいだ。これ以上、私は何を【主】に期待しなければならぬのか。」

7:1 エリシャは言った。「【主】のことばを聞きなさい。【主】はこう言われる。

『明日の今ごろ、サマリアの門で、上等の小麦粉一セアが一シェケルで、大麦二セアが一シェケルで売られるようになる。』」

7:2 しかし、侍従で、王が頼みにしていた者が、神の人に答えて言った。「たとえ

【主】が天に窓を作られたとしても、そんなことがあるだろうか。」そこで、エリシャは言った。「確かに、あなたは自分の目でそれを見るが、それを食べることはできない。」

先に「アラムの略奪隊は、二度とイスラエルの地に侵入して来なかった。」とありますから、アラムの王ベン・ハダドは全軍を召集し、サマリアに上って来て、これを包囲した。」というのは矛盾のようですが、ベン・ハダドは列王記の中にも13、15、20章に別人が出てきます。「略奪隊」と称される一群とは別の王が攻めてきたということでしょう。

子どもを煮て食べるなどという恐ろしいことが

起きたイスラエルは末期的な状況でした、これも王はじめ民の不従順によるもので、自ら主の助けを放棄した結果です。しかしそれでも王は悔い改めることをせずに、エリシャに怒りを向けました。不信仰な者ほど問題の原因を人に転嫁しやすいものです。

これに対しエリシャはうろたえることなく、「あすの今ごろ、サマリアの門で、上等の小麦粉一セアが一シェケルで、大麦二セアが一シェケルで売られるようになる。」との主の救いを宣言しました。ききんは去って豊かになるということです。にわかには信じがたいことでしたが、主にはできるとの信仰です。

出来事の本質は主との関係にあります。出来事の背後に働く主のみこころをしっかりと見て、ふさわしい行動をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

